

学校長様  
英語科担当者様  
ELEC 同友会英語教育学会会員各位

ELEC 同友会英語教育学会会長 本多敏幸  
第29回研究大会実行委員長 木幡隆宏

## E L E C 同友会英語教育学会 第29回研究大会

爽秋の候、皆様方にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、E L E C 同友会英語教育学会第29回研究大会を、下記の要領で開催する運びとなりました。毎年、多くの現職教員の方々に加え英語教育を志す学生の方々にも熱心にご参加いただき、熱気あふれる大会となっております。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜と感謝致しております。

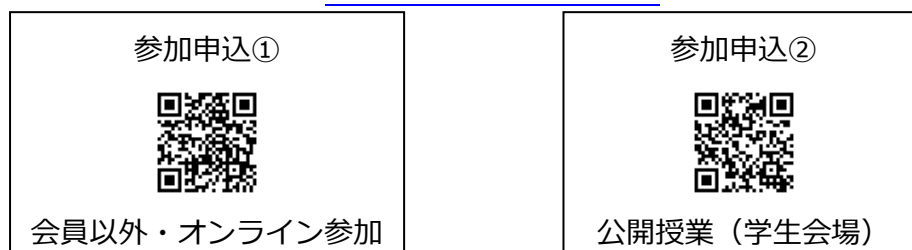
昨今、小学校から大学まで、英語教育をめくり様々な動きがあります。本学会では、このような動向もふまえつつ、よりよい英語教育を目指して、各研究部会で研究を進めて参りました。今年度は対面とオンラインの同時開催（ハイブリッド形式）で実施することになりました。引き続きオンラインで全国の多くの方々に参加いただけることを期待し、また久しぶりに直接皆様にお会いできることを楽しみにしております。

英語教育に関わるすべての先生方、教員志望の学生の皆さん、奮ってご参加下さい。

### 記

1. 期日：2023年10月29日（日） 9:50～17:30
2. 実施方法：ハイブリッド形式（対面および遠隔会議システム Zoom を使用したオンライン）
3. 会場：工学院大学新宿キャンパス（JR「新宿駅」西口より徒歩3分）中層棟6階を中心として  
\*EV03 または EV04 のエレベーターをご利用ください
4. 主催：E L E C 同友会英語教育学会
5. 参加方法：
  - ①会場（対面）参加の場合
    - ・ **事前申し込み不要**です。
    - ・ 当日会場にて入会（年会費 一般 5,000 円、学生 1,000 円）の手続きをされた方は、会員として無料で参加できます。
  - ②オンライン参加の場合
    - ・ **会員**（2023年度会費納入済に限る）は事前申し込み不要です（メールでオンライン参加用の情報をお送りします）。未納の方は会費の納入をお願いいたします。  
\*新規入会希望の方は HP のご入会フォームから申し込み、10/25 までに会費をお振り込みください。大会前日までにオンライン参加用の情報をお送りします。
    - ・ **会員以外**の方は HP または下記 QR コード（参加申込①）より事前申し込みが必要となります（申込期間：10/1～10/25）。
    - ・ 「**ビデオによる公開授業（学生会場）**」は、学部学生のみ無料でオンライン参加が可能です。HP または下記 QR コード（参加申込②）より事前申し込みが必要となります（申込期間：10/1～10/25）。

HP：<https://elecfriends.com/>



（申込期間：10/1～10/25）

**6. 参加費：**一般会員 無料、学生会員 無料、一般 2,000 円、学部学生 1,000 円

参加方法と参加費一覧

参加方法	事前申込	参加者別			
		一般（会員）	一般（非会員）	学生会員	学部学生（非会員）
会場（対面）	不要	無料	2,000 円	無料	1,000 円
オンライン	会員は不要* 会員以外は必要	無料	2,000 円	無料	1,000 円**

\*2023 年度会費納入済の会員の皆様にはメールでオンライン参加用の情報をお送りします

\*\*「ビデオによる公開授業（学生会場）」は学部学生のみ無料でオンライン参加可能

■ 参加費・年会費のお振込み ■

- みずほ銀行九段支店 ● (普) 1700545
- 口座名：ELEC ドウユウカイエイゴキョウイクガツカイジム ● 振込手数料はご負担ください

※参加申込登録および参加費・年会費のお振り込みは 10月25日（水）が期限となります。

※対面参加の場合は当日会費納入、入会手続きをすることも可能ですが、できるだけ事前をお願いいたします。

**7. プログラム**（詳細は変更になる可能性があります）：

9:20	受付開始	12:30～13:20	研究部会発表 I
9:50～10:00	開会行事	13:35～14:25	研究部会発表 II
10:00～11:20	講演	14:40～15:30	研究部会発表 III
11:20～11:35	会員総会	15:45～17:20	ビデオによる公開授業（一般会場）
11:20～12:30	昼食	15:45～17:30	ビデオによる公開授業（学生会場）
		17:20～17:30	閉会行事

**8. 内 容：**

◆ 講演（10:00～11:20）

題目：ChatGPT と小中高英語教育：教育現場での新たな展開 講師：水本篤（関西大学）

本講演では ChatGPT を小中高の英語教育現場で活用する方法についてお話します。ChatGPT は、教材作成、授業準備、教室内外での利用など、さまざまな場面での活用が可能です。その具体的なアイデアを紹介し、ChatGPT を教育実践に組み込む提案をします。また、ChatGPT は、現在もその利用方法が、国内外の教育現場で検討されている段階ですので、参加者同士の意見交換もできる限り多く行いたいと思います。

◆ 研究部会発表 I（12:30～13:20）

<オーラルアプローチ研究部会> 「思考力・判断力・表現力とオーラルアプローチ～【発表】の活動につながる口頭練習～」

「英語で授業を行う」ための基本的な技術である「オーラルイントロダクション」と「パターンプラクティス」について研究しています。現在は導入から復習、そして言語活動まで、様々な先生方が参考にできる「授業パッケージ」の作成を行っています。今年度は中学2年生が、思考・判断・表現の活動にあたる「即興的な発表」を可能にするために、教科書本文の音読から substitution（基本文に別の語句を代入して別の文を作る）のパターンプラクティスを、どのように行えばよいのか提案します。

**発表者：**安部智秀（東海大学菅生高等学校中等部） 樋口はる菜（羽村市立羽村第一中学校）  
宮崎太樹（日野市立日野第一中学校）  
**実演者：**長澤亮（玉川大学教職大学院生） 吉田直人（相模原市立清新中学校）

#### <ライティング研究部会> 「生成 AI や機械翻訳をライティング指導にどう活かすか」

これまで機械翻訳をめぐるのは、学習者に使わせるか使わせないかといった議論が多かったが、ChatGPTを始めとする生成 AI の登場もあり、こうしたツールをまったく使わせないという選択肢はもはや現実的ではなくなった。また、こうしたツールは教師支援としての利用価値も高い。そこで、本発表では、ライティング指導において、生成 AI や機械翻訳などのツールの使用場面を整理しながら、いくつかの具体的な指導例を提案したい。

**発表者：**工藤洋路（玉川大学） 石毛順子（豊橋技術科学大学） 加藤洋昭（聖徳大学）  
木幡隆宏（目白大学） 齊藤澄江（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）  
長橋雅俊（東京工業高等専門学校） 松岡まどか（横浜雙葉高等学校）  
吉住香織（立教大学） 和田朋子（工学院大学）

#### <語彙指導研究部会> 「英単語テストにおける累積型アプローチの効果の検証」

\*オンラインでの発表（会場ではスクリーンに Zoom 画面を映して発表します）

昨今の英単語テストにおける非累積型アプローチの研究によると、この方法では、およそ 2~3 割の単語しか学習者の長期記憶には残らないことがわかった。それに対して、累積型アプローチでは、2、3 倍近い数の単語が長期記憶に残る。累積型アプローチとは、最初の週はまず 1 番から 10 番までのテストをするが、次の週には 1 番から 20 番までが試験範囲となるテストで、試験範囲が 30 語、40 語と増えていく。長期記憶に入れるのに累積型が良いとはいえ、高校生が、30 語、40 語といった数の試験範囲に耐えられるのか。そこで生徒アンケートとともに、累積型単語テストと、非累積型単語テストを実施し、どちらがより長期記憶に有効かを検証した。

**発表者：**岡田順子（元埼玉県立朝霞高等学校） 宮島盛明（新潟県立加茂高等学校）  
渡邊政寿（上越教育大学） 岡崎伸一（熊本大学）

#### ◆研究部会発表Ⅱ（13:35~14:25）

#### <評価研究部会> 「思・判・表その後～改めて様々な角度から」

評価部会では、「思・判・表」育成へつながる授業活動やテストの在り方についてこれまでリサーチを行ってきたが、今年はテーマを特に 1 つに絞らず、各部員がこれまでの研究に基づきそれぞれの現場で実践してきたことを共有しながら議論を進めてきた。今大会では、①態度評価についての考え方、②入門期における知識・技能の指導と評価のあり方、③論理表現、英語コミュニケーションにおける思判表へつなげる活動（生徒活動動画含む）、④授業準備における生成 AI 利用のアイデア、について情報提供したいと考えている。

**発表者：**中村隆（明治学院高等学校・非） 岩瀬俊介（学法石川高等学校・石川義塾中学校）  
遠藤修史（山梨県立甲府第一高等学校） 高杉達也（筑波大学附属中学校）  
高場政晃（兵庫県立明石高等学校）

#### <音声指導研究部会> 「続・ICT をめぐる音声指導の現場動向」

昨年度に引き続き、ICT と音声指導について考えていきます。ICT の発達により可能になったさまざまなサービスや機能を取り入れた授業実践を共有しつつ、「生身の教師だからできる指導」「教室だからできる学び合い」と ICT との兼ね合いについてもバランスを探っていきます。ICT と言っても、QR コードによる音声再生等シンプルなものから生成系 AI が関わるものまで中身は様々。音声指導に活かすために何をどの程度使うことができるのか、ご参加の皆様にとって考えるきっかけとなるひと時にしたいと思います。

発表者：宇佐見京子（足立区立鹿浜菜の花中学校）  
小林 隆史（立教池袋中学校・高等学校）  
田中 敦英（桐朋中学校・高等学校）  
松津 英恵（東京学芸大学附属竹早中学校）

尾崎ちひろ（佐世保工業高等専門学校）  
鈴木駿介（東京学芸大学 学部生）  
中村剛世志（学習院女子中・高等科）

#### <小学校英語教育研究部会> 「小学校英語から中学校英語へと知識・技能の学びをどうつなげるか」

CAN-DO 形式での学習到達目標の設定により、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度の評価に関しては、単元内や単元間を通した学びをつなげ、学年間やさらには小中間の一貫した学びをいかに実現していくかが議論されています。それでは知識・技能の接続の面ではどうでしょうか。小学校外国語活動から教科への音や文字などの学びの接続や、中学校段階への言語発達を踏まえた小学校での指導と評価の工夫等について考えます。

発表者：長沼君主（東海大学） 狩野晶子（上智大学短期大学部） 五十嵐浩子（国土館大学）

#### ◆研究部会発表Ⅲ（14:40～15:30）

#### <実践研究部会> 「中・高連携を考えた領域統合型の言語活動 - 思考ツールを用いた考えを述べる言語活動 -」

この数年行っている「中・高連携を考えた領域統合型の言語活動」の研究の一環として、思考ツール（Thinking tool）の使用や教師の発問について発表します。1人1台端末が導入され、思考ツールが頻繁に使われるようになってきました。そこで、1つの教材を取り上げ、pre-reading、while-reading、post-readingのそれぞれの段階で使える思考ツールの様々な例、教師の発問の例、及び一連の指導手順について紹介します。

司会者・発表者：本多敏幸（都留文科大学ほか）

発表者：高杉達也（筑波大学附属中学校） 齊藤澄江（埼玉県立伊奈学園総合高等学校）  
山本明子（神戸市立葺合中学校） 三浦幸子（都留文科大学）

#### <リーディング研究部会> 「批判的思考力を育てる英文読解指導」

読解指導では、語彙・文法などの知識や技能の習得だけに留まらず、生徒が自ら背景知識や価値観などと照らし合わせながら内容を批判的に検討したり応用したりするなど、高認知的活動を促すことが求められます。中学校・高校において、批判的な思考を促すためにどのような発問や課題が考えられるのか、授業実践をもとに検討していきます。

発表者：平川新（予備校講師） 飯野厚（法政大学） 遠藤康子（練馬区立貫井中学校）  
三瓶理恵（二本松市立小浜中学校） 二川圭吾（横浜平沼高等学校）

#### ◆ビデオによる公開授業（一般会場 15:45～17:20 / 学生会場 15:45～17:30）

「高校3年生の授業・コミュニケーション英語Ⅲ」 授業者：宮崎貴弘（神戸市立葺合高等学校）

Crown English Communication Ⅲ（三省堂）のLesson 5 “The Biggest Event in Human History . . . Or the Last?”を扱う。教科書では、deep learning を活用したAIにできること、AIが成し遂げてきた数々の偉業、そしてAIに対して危惧されることが紹介されている。教科書で理解したことを踏まえ、生徒に思考を促す発問とその指導を考える。生徒が未来の社会でどう生きるかを考える機会にする。

【一般会場】解説者：津久井貴之（群馬大学）

【学生会場】解説者：工藤洋路（玉川大学）

## 9. 協賛企業

HP 上に順次掲載いたします (<http://elecfriends.com/>)。

## 10. その他

### ① 大会全般について

- ・台風や感染症急拡大等の不測の事態による大会の中止や変更（オンラインのみ開催等）については、本学会 HP をご覧ください。

### ② 資料配布・会場について

- ・要項等の資料は Google ドライブを用いてオンライン上で配布をいたします。会場の Wi-Fi は利用できませんので、通信環境（スマホ等）は参加者ご自身で確保いただきますようお願いいたします。
- ・昼食はお弁当等をご持参いただくか、近隣の飲食店・コンビニ等をご利用ください。学食はございません。
- ・ゴミはお持ち帰りいただきますようお願いいたします。

### ③ オンライン参加について

- ・メールにて Zoom への接続方法等についてご連絡差し上げます。受信制限等の設定にご注意ください。メールが届かない場合は、お問い合わせの前に迷惑メールフォルダのご確認をお願いいたします。
- ・通信環境につきましては、参加者ご自身の責任となりますので、事前の通信環境等のご確認をお願いいたします。

## 11. 問い合わせ先 E-mail: [elec\\_taikai2023@elecfriends.com](mailto:elec_taikai2023@elecfriends.com) 木幡 隆宏（コワタ タカヒロ）